

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：東門前保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：向後 弘美	定員（利用人数）：60名	
所在地：〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-8-2		
TEL：044-266-8984	ホームページ： https://www.zai-roudoufukushi-kanagawa.or.jp/monzen-hoiku/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1960年10月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：公益財団法人 神奈川県労働福祉協会		
職員数	常勤職員：7名	非常勤職員：12名
専門職員	（専門職の名称）：名	看護師：1名
	保育士：10名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	乳児室	調理室
	乳児室	トイレ
	保育室	事務室
	保育室	医務室
		遊戯室

③理念・基本方針

<理念>

児童の心身ともに健やかな成長を目指し、保護者の子育てと就労の両立支援、さらに地域の家庭保育支援など多様化した社会のニーズにこたえ、開かれた児童福祉施設としての役割を認識し、福祉の増進に寄与する。

<保育方針>

- 一人ひとりの子どもの心を大切に、個人差を考慮しながら自主性と豊かな心情を育て友達と一緒に楽しく活動できる保育園生活を送れるようにします。
- 日本の伝承文化を尊重し、地域の子育て支援活動の充実を図り、利用しやすい保育園、信頼される保育園を目指します。
- 保護者との密接な連携を図り、信頼される保育園を目指します。

<保育目標>

1. 健康なこども

一人ひとりの状況を適切に把握し、乳幼児に大切な遊びを通して健康な心と身体の発達、生活に必要な基本的な習慣や態度を培う。

2. 仲間をつくれるこども

一人ひとりが大事にされ、のびのびと生活できる環境を設定するとともに、様々な体験を通じて愛情と信頼感、社会生活に必要な自主性、協調性を学び、生命の大切さを知る。

3. 考えることも
個性を尊重し、発達に見合った生活やあそびの材料を提供することにより、自然や社会の事象について興味や関心を持ち、豊かな感性・発想・思考力を高める。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜東門前保育園の特徴的な取り組み＞

- 日本の四季や伝統文化を尊重し、わらべうたや伝承あそびを通じて自己表現の楽しさや人や自然との関わりを大切にしています。
- 異年齢保育を行っており、異年齢保育を通して自主性や協調性を学び、生命の大切さを知る。心身共に健康な子どもを育てていきます。
- 良質な保育サービスを提供するために、職員の資質向上に努め、園内外の研修や会議を行い、総合力を発揮できる職員体制を形成しています。
- 地域の子育て支援活動の充実を図り、利用しやすい保育園、信頼される保育園を目指し、離乳食試食会や健康相談を開催しています。
- 保護者との密接な連携、協力関係の推進を図り、関係行政機関、関係団体との連携、協力関係の維持を図っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年06月01日（契約日） ～ 2022年03月04日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2016年度）

⑥総評

【東門前保育園の概要】

- 東門前保育園は、京浜急行大師線東門前駅から徒歩3分の所に位置しています。現地周辺は第二種住居地域であるため、住宅が多く、商店や工場はありません。保育園の敷地は、ブロックの西側角地で、北側・西側・南側は生活道路となっています。周辺は、北側は京急線線路、東側は企業の社員寮、南側は川崎大師所有地（グラウンド）、西側は東門前公園（約1,900㎡）があり、このため、園舎にも園庭にも太陽光が燦々と降り注ぎ、隣の東門前公園でも遊べる、という地の利を得ています。
- 園舎は、当初から保育園として建てられたものであり、施設全体を保育園として使っています。2階建てで、屋根の一部は招き屋根にしており、1階にあるホール（約70㎡）は天井までの吹抜け構造となっています。保育室は、1階に1室、2階に3室あり、2階の保育室には、テラスが設けられており、そこでも遊ぶことができます。園庭（約217㎡）には、固定設備の屋外プールが設置され、広い畑、様々な果樹等が豊かに実り、常に多種類の野菜、果物を育てています。
- 東門前保育園の運営は、公益財団法人神奈川県労働福祉協会（以下、法人という）です。法人は、1957年、日雇い労働者の経済的自立と生活意欲の向上等を目的として設立されました。そして、日雇い労働者の子どもを昼間預かるために、1960年に設立したのが「東門前保育園」です。1965年には、横浜市中区寿町に「ことぶき保育園」を開園しました。それから50年を経た2015年、公立保育園の民営化により「大師保育園」の運営を開始し、現在、3園の保育園を運営・実施により、地域、社会に貢献しています。

◇特に評価の高い点

1. 【異年齢児と一緒に集うクラス編成】

●東門前保育園は、0才児から5才児までを預かっており、クラス編成は年齢別ではなく、縦割りとしています。現在は、0才児～1才児のクラスが1組、1才児～2才児のクラスが1組（なお、2021年度は2才児のみ）、3才児～5才児のクラスが2組、という4クラス編成としています。同一クラス内に異年齢児がいることで、年上の子どもにとっては、下の子どもに頼られるという関わりになるため、優しさや「お兄さん・お姉さん」としての自覚が育ちます。また、下の子どもにとっては、年上の子どもが憧れの対象やロールモデルとなり、年上の子どもを目指してがんばろうという意欲が生まれます。さらに、兄弟で登園している家庭にとっては、兄弟が同じクラスで同じ活動をすることで、仲が良くなるといったメリットも享受できています。

2. 【伝承遊びを取り入れた保育活動】

●東門前保育園では、日本で古くから歌い継がれている「わらべうた」を保育活動の中に日常的に取り入れています。幼児クラスでは、子どもと保育士が手をつないで輪になり、例えば「かごめかごめ」を歌う活動をしています。また、羽根つき、凧揚げ、毬つき、コマ回し等、昔ながらの遊びも取り入れています。こうした、わらべうたや伝承遊びは、(1)お友だちと一緒に遊ぶことでコミュニケーションがとれる、(2)様々な遊びがあるので、月齢、年齢に合わせて遊びを選べる、(3)世代を超えて楽しめる遊び、であり、家庭や親戚の中で、祖父母と一緒に遊べる等、利点が多くあります。世代的に馴染みが希薄な職員は、先輩職員が開く学習会や外部研修で学んでいます。しかし、何といても子どもたちと一緒に遊び・楽しむ中で学び、覚えていく過程で一体感を作り上げていきます。

3. 【自然に触れることを重視した保育活動】

●自然に親しむ「自然保育」を、東門前保育園の方針としています。この方針の具体化として、園庭には、柿、ぶどう、桃、梨、ブラックベリー等の果樹、きゅうりやナス等を栽培する畑、さらにトロ舟（プラ舟）を使ったミニ田んぼまで用意しています。特に、お米については専門家に毎月来てもらい、土作り、田植え、稲刈り、脱穀、粳摺りまで、お米ができるまでの一連の過程を、子どもたちが実体験を通して学べるようにしています。その過程で、5月には千葉県に田植えに出かけ（5才児のみ）、9月には、稲刈りを行う親子遠足に出かける等、本格的な取組みを行っています。また、お米以外でも、園庭で育てている果物や野菜については、植物を育て、成長を見守り、収穫を喜び、そして味を楽しむ、という一連の過程を、年間を通して継続的に体験できる機会を提供しています。「私たちは、生きているものを食べることで生きられる」ということを学べる、意義のある取り組みだと評価することができます。

◇改善を求められる点

1. 【保育士募集にあたり、さらなる情報提供の必要性】

●東門前保育園では、(1)保育士の採用に苦労していること、また、(2)若い保育士の中には早期離職する人もいること、が園の課題であるとしています。法人が定めている、保育士の賃金、勤務条件、福利厚生等の待遇を見ると、業界の平均水準以上のものであり、また、東門前保育園は、駅から3分と通いやすい立地であることから、条件的に不利であるとは思われません。そして、募集活動についても、ホームページでの募集、ハローワークや求人サイトへの登録、職員を通じた働きかけ（リファラル採用）、就職フェアの参加等、多くの媒体、手段を通して行っています。にも拘らず、中々成果が上がっていない現状を鑑みると、応募を増やしていくためには、保育園就職希望者に対して、東門前保育園での働き方や入職後のキャリアパスについて、より詳細な情報を提供する

ことが必要であると思われます。例えば、(a)運営法人、園の保育方針や特長（求職者向け）、(b)一日の仕事の様子、(c)先輩保育士の声、(d)研修体系、(e)キャリアアップの仕組み、等について、図表、写真、イラスト、動画等を多用して情報提供し、求職者が、(ア)自分の働く姿をイメージできる、また、(イ)この職場で自分が成長していけると実感できることが望まれます。このような取り組みは、同時に、若手職員の定着にも寄与すると考えられます。積極的な取り組みを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 公益財団法人神奈川県労働福祉協会 東門前保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

コロナ禍の中、また制約が多い中で2日間ありがとうございました。
保育や行事、保育園の役割等の他に運営面や倫理面、サービス面等、更に細かいところまでの話し合いや検討が組織的に出来た事は、今後の運営や保育士としての在り方、仕事との向き合い方に大きく影響するのではないかと思います。

良いところ、足りないところが明確になり、また自分や保育園を振り返る良い機会になりました。

<評価後取り組んだ事として>

まだ具体的にはありませんが、保育マニュアルは作成していこうと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり